

平成27年度大阪府立八尾支援学校 第1回学校協議会報告

平成27年7月10日

□日 時 平成27年7月10日(金) 午前10時～12時

□場 所 大阪府立八尾支援学校 多目的室3

□テーマ

- ・平成27年度学校協議会委員の紹介
- ・平成27年度学校協議会事務局の紹介
- ・平成27年度学校協議会長の選出
- ・学校協議会実施要項(案)
- ・平成27年度八尾支援学校概要
- ・学校より報告

□学校協議会委員

乾 伊津子	(大阪市職業リハビリテーションセンター 所長)
岡崎 裕子	(大阪大谷大学 教育学部 教授 学長補佐)
御前 敬	(八尾市障害福祉課 課長)
西原 直美	(本校 PTA 会長)
山田 紅美	(東大阪子ども家庭センター 地域相談課 総括)
吉田 裕子	(東大阪市療育センター 第一はばたき園 園長)

□学校協議会事務局

古川 綾子	(教頭・小/高)	渋川 雅宏	(教頭・中)
小林 俊雄	(事務長)	荒木 智恵子	(首席)
井川 忠都	(首席)	横山 眞二	(首席)
山本 耕平	(首席)	山田 美也子	(指導教諭)
松村 由美	(部主事・小)	長谷川 次郎	(部主事・中)
谷 浩美	(部主事・高)		
辻井 武	(総務部)	米澤 歩	(総務部)

□協議会 内容

1 学校長挨拶

通学区域割が変更となり、5年ぶりに小学部・中学部・高等部の3学部体制で4月からスタートした。昨年度末東校において生じた体罰事象について深謝し、児童生徒にとって安全安心の学校をめざして襟を正して取り組みを進めていく。

2 平成27年度学校協議会委員の紹介

3 平成27年度学校協議会事務局の紹介

4 平成27年度学校協議会長の選出

会長 岡崎裕子（大阪大谷大学 教育学部 教授 学長補佐）

5 学校協議会 実施要項（案）

○保護者からの意見書について

- ・昨年度は保護者の方からの意見書の提出はなかった。
- ・意見書の送付方法は、学校協議会のメールアドレスへの送信、学校宛に封書にて郵送、みんなの相談ポストへの投函の3方法としている。

6 平成27年度八尾支援学校概要

○学校経営方針

小学部・中学部

- 児童生徒の発達課題を把握するために、アセスメント検査のできる教員を増やすことが必要。アセスメント研修を8月に行い、支援の充実を図る。
- 授業アンケートを今年度も3回行い、活用する。
- 今年度も管理職による授業見学とそのフィードバックにより、初任者、ミドルリーダーの育成を行う。
- 「知的障がい支援学校におけるキャリア教育プログラム」の作成を行い、小・中・高等部で見通しを持って進路指導、キャリア教育を行っていく。高等部から行っていくのでは間にあわないという認識を持って、小・中学部においては、昨年度作成したキャリア教育プログラムを元に指導に当たる。
- 中河内地区の推進校として、センター機能を高める方法を考察し、学校教育自己診断から、教員の声を反映させていく。また、高等学校との連携支援を強化していく。
- 昨年度東校における体罰事象を反省し、人権委員会を中心に児童生徒一人ひとりの人権が尊重される学校になるよう、人権研修を充実させる。
- 施設整備の安全確保と学校美化の促進をする。大規模改修が早く実現できるよう、教育委員会に促すとともに、教職員でも対応可能な補修については休業期間などを利用して行う。

高等部

- 昨年度東校において、保護者向け学校教育自己診断で肯定的評価でなかった、「家で学校の話をよくしますか」「進路についていろいろと相談できますか」「大型モニターを活用して授業を行っている」の項目も肯定的評価になるよう、ホームルームで話をするよう促したり、進路だよりなどで広報を行ったり、教員の研修を行い、ICT機器が活用されるよう促す。
- 八尾支援学校高等部のキャリアマトリクスについて、他校におけるものを参考にし、作成する。
- 昨年度は支援部ニュースを冊子にし、小・中学校に配付した。今年は近隣の高等学校へも配付し、高等学校への支援も行っていることをアピールしていく。

★質疑応答

Q. ミドルリーダー育成チーム事業とは何か。

A. 府教委高等学校課の事業で昨年に続き2年目である。希望者を募り、キャリア教育に関する研修を行う。今年度の希望者は22名。昨年度の受講者の反応は、他学部の様子を知ることでもでき、よかったという意見が多く聞かれた。

Q. 東校における体罰事象を受けて、新たに取り入れた項目は？

A. 安全・安心な学校づくりの推進を強化する。教職員の障がい理解や専門性を高めていくためアセスメント研修を行っていく。

★ご意見

- ◇ 卒業後の進路先が広がってきていることを教員が意識して指導して行ってほしい。特に、小・中学部が意識して、キャリア教育を行っていくことが大切である。
- ◇ 生活体験を積むことが社会に出ることに繋がっていく。進路先が現在広がっており、教員が、進路先が生徒に合っているのか判断できるよう力をつけてほしい。

○進路指導部より 平成26年度卒業生の進路状況について（報告）

- 今年度から、高等部2年の企業体験実習も年に2回行うこととする。10月と2月に実施予定で、10月は府庁で行う予定。
- 就労継続B型の経過措置は平成26年で終了したため、今年度から、アセスメント実習が必要。
- その他に該当する3名については、相談機関に繋ぎ、地域につないである。

○各学部紹介

小学部

- 基本的な生活習慣、身辺自立を意識しており、「せいかつ」の時間を重要と捉えている。
- 集団遊びなどを通して人間関係を築いていくため、「遊び」に関する重点をおいている。
- 学校間交流は、上之島小学校と年3回程度行っている。上之島小学校の4年生と小学部4・5・6年が交流している。

中学部

- 集団生活を経験することを重視している。
- 朝の時間はランニングをして身体作りをしている。
- グループⅠの授業では国語・社会・英語の内容を、グループⅡの授業では数学・理科の内容の学習を行っている。

高等部

- 高等部は職業コース（フロンティアコース）を設置しており、高等部1年については、2学期からコースが分かれる。
- 水曜日6時限のアクティブタイムのクラブ以外に、放課後に課外クラブもあり、週1回のバス発後の練習の他、週3回の朝練も行っている。

7 学校からの情報提供

○授業アンケート 集計結果

今年度は3日間の参観期間を設けた。アンケート実施は最終日のみ。

小学部

- 提出率は高い。3年から6年では100パーセントの回収率であった。
- 「教師の指導・支援が適切」の項目と、「教材・教具の工夫」の項目の回答が100パーセント肯定的内容であった。

中学部

- アンケートの回収率をあげていくとともに、授業の内容がわかりやすいものになるよう工夫していく。

高等部

- 1年生の保護者からの回収率が0パーセントであった。アンケート実施日の前日に進路懇談会があり、アンケート当日の出席者が少なくなったのが原因と考えられる。今後はアンケート実施日のタイミングを調整する必要がある。
- 設問への回答で、少数ながら否定的な意見もあるので、今後よりよい授業が行えるよう工夫していく。

生徒向けアンケート結果

- 高等部ではフロンティアコースの生徒を対象に、生徒向けアンケートも実施した。「授業がわかりやすい」「もっと勉強を頑張りたい」という回答があった。

★質疑応答

Q. 選択回答の結果も大事だが、自由記述についての分析も大切なのではないか。

A. 教員には授業担当全員に、自由記述の内容は個人情報保護したうえですべて伝えてあります。

★ご意見

◇ アンケートの書き方がわかりにくいので、わかりやすくしてほしい。

◇ 参観期間が3日間あって、3日とも来られる保護者もおられる。高等部の保護者の参観出席は少ない。

○人権アンケート 実施報告

- 職員を対象に人権アンケート実施した。今年度現時点では体罰に関わる事象の報告はなかった。
- 配慮を欠くと思われる行為についていくつか指摘があったことを深く受け止め、今後改めていけるよう指導を行う。
- 研修を行い、熱心さのあまり教員があせらないように意識し、子どもたちをあせらせないことや、「～ねばならない」という思い込みがないように指導した。

8 准校長あいさつ

- 様々なご指摘をいただき、大変感謝している。これらの点を学校経営に生かしていく。人権意識を高め、風通しの良い安全安心な学校づくりに取り組んでいく。2学期末には中間報告が行えるようにしたい。